

2019年度 第6回 豊岡市子ども・子育て会議 議事要旨

日時	2020年3月24日(火) 13時30分～16時00分	
場所	豊岡市役所本庁舎 2階 大会議室	
出席者(委員)	横川会長、大木本副会長、渡辺委員、松原委員、大田委員、間委員、西垣委員、石野委員、阪根委員、中嶋委員、中島委員	
(事務局)	堂垣次長、木下課長、山本参事、川端参事、山根参事、富岡参事、恵後原主幹、谷垣主幹、仲義主幹、吉田係長、福富SSW、吉谷主事 (株)関西計画技術研究所 吉田	
欠席者(委員)	中村委員、小山委員、神尾委員、今井委員、上崎委員、與田委員、久保川委員	
会議次第	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 会長あいさつ3 議事<ol style="list-style-type: none">(1) 協議事項<ol style="list-style-type: none">ア 2020年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業について 資料1、2<ol style="list-style-type: none">(ア) 利用定員について(イ) 量の見込みと確保状況についてイ 2020年度実施予定の特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の確保方策について 資料3(2) 報告事項<ol style="list-style-type: none">ア 2020年度放課後児童クラブの量の見込みと確保状況について 資料4イ 2020年度豊岡市一般会計予算主要事業の概要について (子ども・子育て支援関係分) 資料5-1、2ウ 小規模保育事業所の概要について 資料64 その他<ol style="list-style-type: none">(1) 豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画(案)について 資料7(2) その他5 閉会	
配布資料	資料1	2020年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員について
	資料2	2020年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の量の見込みと確保状況
	資料3	2020年度実施予定の特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の確保方策について
	資料4	2020年度放課後児童クラブの量の見込みと確保状況
	資料5-1	2020年度地方創生の取組概要(子ども・子育て支援関係分抜粋)

資料 5 - 2

2020年度地主要事業の概要（地方創生事業以外）（子ども・子育て支援関係分抜粋）

資料 6

小規模保育事業所の概要について

資料 7

豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画（案）

豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画（案）【概要版】

就学前施設の再編（案）

放課後児童クラブの再編（案）

「豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画」策定スケジュール（予定）

議事要旨

1	開会	開会の宣言（事務局）
2	会長あいさつ	会長あいさつ
3	議事	
	(1) 協議事項	
	事務局	ア 2020 年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業について (ア) 利用定員について (イ) 量の見込みと確保状況について・・・資料 1、2
	会長	2020 年度の確保状況等について何か質問などはあるか。次のイとも少し関連するので、何かあれば合わせて質問していただきたい。
	事務局	イ 2020 年度実施予定の特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の確保方策について・・・資料 3
	会長	ア、イあわせて説明があったが、これについて質問・意見等あるか。あり方計画については、詳細は後で説明してもらえるのか。
	事務局	「4 その他」(1) で説明をさせていただく。
	会長	今の話では、小規模保育所をもう一つ増やす予定を立てているということか。
	事務局	そのように考えている。
	会長	小規模ということは 3 号か。今、どのような状況か。もう少し詳細を言っていただきたい。
	事務局	現在のところ、資料 2 の「B-C」が待機児童ということは申し上げた通りである。現時点での申し込み状況で、潜在的待機児童を含めた 0 歳から 2 歳児が 4 月 1 日時点で 7 人、年度末時点で 9 人という見込みとなっている。
	会長	待機児童が 7 から 9 人という数だと、19 名規模では多くなりすぎるということはないか。
	事務局	現時点の申し込み状況の待機児童が 9 人ということであるが、例年年度途中での申し込みがある。昨年度では 20 人程度あった。年度末時点では供給過多にはならないというふうには考えている。 さらに、各保育施設には利用定員を超えた受け入れをお願いしている。0 歳から 2 歳児で 100 人程度の子どもを弾力運用で受け入れてもらっている状況がある。その観点から、もう一つ必要だと考えている。
	会長	これもまた公募か。
	事務局	同じような手法で、公募というふうには考えている。
	副会長	年度や地域によっても違う。来年度は 0 歳児の申し込みが少なく、その分ほかが多かったというように、読むのがなかなか難しいところがあると思う。 小規模を 2021 年に開園し、それに合わせて 2024 年の豊岡市全体の 3 歳児の受け皿枠として八条を考えているということか。 その通りである。

事務局 市全体のバランス等も考慮し、良く検討の上、必要であれば公募するという
会長 ことで進めてもらってよいか。ほかに意見はあるか。
(異議なし)
それでは了承をいただいたということで、進めていただきたい。

(2) 報告事項 (ア) 2020 年度放課後児童クラブの量の見込みと確保状況について

事務局 ……資料 4
会長 放課後児童クラブについて何か質問はあるか。
事務局 今は待機児童が 1 名であるが、調整中であり、このままいけば 5 月 1 日の段階では 0 にできるのではないかという状況である。
会長 計画で見込んだものと、差異はあるか。
事務局 想定よりも増えているということはあるが、想定の内である。
委員 放課後児童クラブの資料について、上段が見込み・計画値で、実績が下段ということで、トータル的には若干実績が増加して 1,476 人となっているが、各クラブで増減の動きが激しい所がある。例えば、日高では 30 人落ち込んでおり、逆に豊岡あたりは 30 人あまり増えているという、このような結果に対する調査や分析みたいなことはされているか。もし、そのようなことを把握されていたらお知らせをいただきたい。
事務局 いろいろな方法で確かめようと思っているが、それもその年ごとで、増えた年、減った年と状況が変わっている状態で、一概に原因を特定できていない状況である。今後も何が原因でその状況になっているのかということは把握していきたいとは思っているが、現実では分析が難しいところである。

事務局 (イ) 2020 年度豊岡市一般会計予算主要事業の概要について(子ども・子育て支援関係分) ……資料 5-1、2

会長 子ども・子育てに関係する事業について質問はあるか。
委員 21 ページの 49 番の「出会い機会創出」について、1 週目に男性が来てプロフィールを作成し、その次に女性が来るという形になっている。その後には女性は男性のプロフィールを見て、お見合いしたい人を選ぶということになると思うが、その逆のパターンもあるのか。男性が女性のプロフィールを見ることはあるのか。
事務局 直接担当ではないが、聞いたところでは、ここに書いているものは女性主導という形で、男性が女性に選んでもらうということになっている。
委員 選ばれていない人は残るので、女性を選べるような、逆のパターンはないのかと。待っているだけという感じに思うので逆もあれば。
事務局 そのような意見があったということは伝えておく。
22 ページにある「はーとピー」の事業は男性も女性も参加してもらい、みんなの中で選んでいただけるという事業で、あえてこういったものができたと思っている。確かに、どちらのパターンもあったほうがよいと思う。このあ

たりをこちらの「はーとピー」の事業でされていると思っている。

会長 ぜひ意見を伝えてほしい。少子化の大元の部分で、よい提案をしていただけたと思う。

保育士の確保などのことがここに出ていたと思うが、豊岡に戻ってきてもらわないといけないU Iターンということがある。5ページの所であるが、戻って定住してもらえば、少子化対策にもつながっていく。

保育士確保についても、どこの地方でも課題になっており、当然子どもだけの問題ではなく、まち全体の問題だと思う。目標・目的は当然だと思うが、こういうことで効果があるかということをもどのようにして調べ、どのような判断をしているのか。資料があれば聞かせていただきたい。

事務局 Uターンなどに関しては戦略を策定しており、その中で指標を作り、指標の目的に近づいているかどうかという評価していくことになる。その中で豊岡市が一番の課題にしているのが若者回復率で、18歳で出ていき、帰ってくる方が少ないということである。男性については半分くらいが帰ってきているが、女性は2割と少しである。

女性が少ないということが一番の課題にしており、若者回復率を少しでも上げ、女性に選ばれるまちを目指すということで「ワークイノベーション戦略」を制定している。そこをなんとか上げたいということが大きな目標となってくると思う。それについては人口の伸びなどで図れるので、その目標で追っていくことができると思う。手元に資料はないが、そのあたりが大きな目標になっている。

例えば5ページのワークイノベーションの推進では、「子育て中の就労促進事業の就職内定者数」を指標にしている。Uターン、Iターンについては、新規の就職者数や移住の組数、窓口相談等の利用者数で効果があったのかなかったのかを毎年検証しているというようなどころである。

委員 女子学生が出ていかにないように、例えば、女子学生に人気のどこかの大学の学部などを誘致して、こちらで大学に行くことができれば出ていくことはないのか。

私は逆に神戸からこっちに来たパターンなので異なるが、こちらで知り合った20代の若い人たちは帰ってきてても、結局大学で知り合っていた彼が神戸や大阪にいて結婚して出ていくパターンがあるため、出さない、出ていかななくてもよいように豊岡の中で大学があれば。今は豊岡短大しかなく、しかも保育士に興味があればたぶん行かない。例えば、英文科や経済学部などの一般的な大学にこちらでも通えるような学校の誘致などは考えたりしているか。

大きな大学でなくても一つの所にいろいろな学部やいろいろな大学の出先のような環境があれば、出ていく人も減るのではと思う。

事務局 大学誘致は、なかなか難しいところである。近年、大学全入時代と言われているが、だんだん減っていくほうに今はなっていくと思われる。

豊岡市においては、短大と大学院は県立大の大学院があるが、一般的な4年

制大学はない。

来年度開学予定の専門職大学については豊岡市の念願の大学誘致ということで、今年の夏くらいに認可が下りれば、それから募集が始まる。1学年 80人の4年制で、これは専門学校ではなくて、学校教育法第1条の大学ということになり、4月に開学を予定している。

学べる内容が観光、文化ということになっており、アートや観光、演劇のようなことに興味がある方で受験したい方は何人かいると聞いているが、特定の学科で1学部1学科になる。それでも80人定員となるので、少しでも残ってもらえる、また外から入ってもらえるということで、豊岡市としてはとても期待しているところである。

そこで学ぶ方は単位の半分以上が実習ということになっているので、地元の企業や旅館などで勉強をされ、そこに将来的には残っていただき、少しでも豊岡市で就職していただける方が増えるのではないかとということで、定住の促進にもなるのではないかと期待している。

新たな大学となると難しいため、今決まっているものについては有効に活用していき、出ていく方もできるだけ少なく、残ってくださる方も増やしていきたいと考えている。

高校でのいろいろな取組については、豊岡市のいろいろな企業を見ていただいたり、市長が全高校を回って豊岡市にある企業を紹介したり、豊岡市の取組について話をしている。自分たちが今まで知らなかったということもあって、豊岡市にいてもあまり就職先がないのではないかと思っていた生徒もいたと聞いているが、そのようなことで豊岡市にはこのような企業があるなら帰ってもよいかと思う方がいると聞いている。そういうことでも、少しずつでも帰ってきてもらえる学生が増えればと思っている。

会長 早いうちから、こちらでいろいろなことができて、あまり行かなくても、明るい未来があるような、そのようなまちづくりができていれば、もっと定着率が増えていくのではないかと思います。

委員 今の委員の意見について、行政改革委員会という会でそのような話が出てきたことがあるが、「豊岡〇〇大学」などをつくっても絶対に集まらない。有名校の冠をもらって、例えば「関西学院大学豊岡英語〇〇」というようなものだったら生きてくる。豊岡市がダメだという話ではないが、そういうものでないと、今からの学校経営はなかなかできないのではないかと話題になったことがある。

委員 地方に分校のようなかたちで置くような。ここの近大の附属高等学校と附属中学校も、いろいろな所にあるうちの一つ。豊岡短期大学も以前は近畿大学附属で、それが取れてからどうなったのかはわからないが。

委員 勉強、学習がしたくて大学に行くのだったら、今の世の中はインターネットなど、これから先いくらでも勉強できる。学生たちが要するになぜ都会の学校に行きたがるかということ、都会での学生生活を送りたいということが一番にあ

ると思う。それには太刀打ちできない。

豊岡市の魅力について、例えば外から入ってこられた方が、私たちが気付かないような魅力に気付いておられると思う。わざわざ外から豊岡市に移住してこられる方もいるので、その方々の話を例えば中学生くらいの年代から刷り込む、洗脳するのではないが、「豊岡市の魅力を知らなかった」、「そのようによい所だったのか」と、そのような話を聞かせてもらうような授業や時間が持てたら、子どもたちにも豊岡市はよい所だとわかるのではないかと思う。

会長 今の発言は面白いアイデアだと思う。

ここにいる人がいくら良いですよということも意味はあるが、外から入ってこられた方にそのようなことを言ってもらうことによって、改めてということもあると思う。

事務局 豊岡市にもホームページにそのようなサイトがあり、その中で外から来られた方がいろいろな豊岡市の魅力を発信するようなページは作成されている。「今、豊岡市ではこのようなことをしている」、「このような魅力がある」という発信はさせていただいているが、なかなかそれが結びつかないところもある。今、おっしゃったようなことは今後続けていければ良いと思う。

委員 私が大学を出てすぐの翌年に転勤で豊岡市に来て、正直な話、最初は「大変な所に来た」と思った。

でも今は、良い所だと思う。パツとした派手な所の魅力はなかなか見いだせないが、実際これだけの自然がある。例えば私は今、ウォーキングクラブを主宰してやっているが、都会だったら味わえないことがたくさんある。

いろいろと取組を一つひとつしていただけたら良いと思う。

事務局 (ウ) 小規模保育所事業所の概要について・・・資料6

会長 前回、報告があった小規模保育事業所構想についての質問はあるか。

委員 建物は2階建てになるが、2階は別の施設が入る複合施設か。

事務局 小規模保育所は1階だけ、2階は訪問看護ステーションの事務所になる。

4 その他

事務局 (1) 豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画(案)について・・・資料7

会長 地域それぞれの意向などを勘案しながらあり方計画を立てていることがよくわかった。今の説明に対して何かあるか。

委員 日高地域について、10年というスパンで考えているが、例えば5年先は本当に分からないわけで、急激に子ども数が減る可能性があると思う。その間に計画の再編、見直しということはできるのか。

事務局 状況によっては検討することになる。特に日高地域の関係する法人と協議する中で、今、日高地域の園は特に豊岡地域からも通園があり、今後豊岡地域の子どもが豊岡の園で全員集約ができた場合は影響が大きいという説明をさせ

	<p>ていただいた。そういう状況があり、将来的には日高の4法人が集まって相談をしないといけないのかな、ということと言われた法人もあり、必要があれば変更をかけようと思っている。</p> <p>とにかく前期は、待機児童解消のため速やかに実施し、後期は、状況によっては内容が変わってくる可能性もあると思っている。</p> <p>会長 最終は8月確定か。</p> <p>事務局 その予定であり、8月に計画を策定し、来年度の予算要求に間に合わせたいと考えている。</p> <p>事務局 (2) その他について</p> <p>会長 その他に委員のほうから何かあるか。 (特になし)</p> <p>これを持って本日の会議を終了させていただく。</p>
5 閉会	副会長あいさつ